

## 勇躍パリへ

慶喜の將軍就任は、栄一に大きな失望をもたらしました。栄一の見るところ、幕府の命運はすでに尽きており、あえて困難な立場に身を置くとする慶喜の将来が危惧されました。それに加えて、幕臣といっても御目見え以下の身分であり、直接慶喜に会って物を言うことができなくなっていました。ことも不満でした。明日辞めようか明後日辞めようかと思いついていた矢先、栄一は上司の原市之進から呼び出されます。

原の言うには、慶喜の内意として、パリ万国博覧会使節の一員に栄一を加えたいとのことでした。思いもかけない話に、栄一の心はときめきました。

使節の代表は、慶喜の弟で、水戸徳川家から入って清水家を継いで



▲徳川昭武(渋沢史料館提供) 第9代水戸藩主徳川斉昭の18男で、後に最後の水戸藩主となります

だ昭武(当時十四歳)でした。この昭武については、万博関連の公式行事や各国巡歴が終わった後に、数年間の個人的留学が予定されていました。栄一には特に、この留学面でのサポートが期待されたのです。

栄一が快諾したのは言ってもありません。かつての過激な攘夷主義者も、一橋家に仕えている間に、外国の進んだ文明に学ばなければいけないという考えに変わっていました。

慶應三年(一八六七)一月十一日、昭武一行を乗せたフランス郵船アルヘー号は横浜を出港します。栄一は一行中の俗事係として、会計と書記を兼ねる役回りでした。いわば実地に即した形でヨーロッパ文明と向き合わざるを得ない立場であり、彼の地から学びに絶好の位地を占めることになりました。

栄一は、船中で初めてコーヒーを飲みますが、「すこぶる胸中をすこやかにす」と、何の違和感も覚えていないところが不思議です。また、船中での人の扱いが丁寧で行き届いていることにも感心し、「人生を養う厚き、感ずるに堪えたり」と述べています(渋沢栄一・杉浦愛蔵共著『航西日記』)。

(文：新井慎二)



【第11回】

# キラリ熱・中・時・間

～パワーリフター 大沢充さん(70歳)～



## 『世界一』その先を求めて

「人間が持つ本来の強さを最大限引き出したい」と話すのは、西島在住の大沢充さん。パワーリフティングの世界記録ホルダーです。

パワーリフティングは、バーベルを使用した3種類の合計重量を競うスポーツ。大沢さんは、昨年12月に神戸市で開催されたアジア選手権の70歳以上74kg級に出場し、スクワット202.5kg、ベンチプレス115kg、デッドリフト182.5kg、合計500kgを持ち上げ、世界記録を樹立しました。

大沢さんが体を鍛え始めたのは、意外にもゴルフの飛距離を伸ばそうとジムに通ったのがきっかけ。60歳でベンチプレス100kgを持ち上げる大沢さんを、ジムの仲間が大会に誘いました。初めての大会は、不満の残る結果となりましたが、以来真剣に取り組みようになったと言います。退職後、65歳で専門のジムに通い始めると、平成19年のアジア選手権への出場を皮切りに、これまでアジア選手権



▶アジア大会の様子(昨年12月・神戸市) スクワット(バーベルを背負いひざを曲げ伸ばしする)を競技中

へ3回、世界選手権へ2回出場。アジア選手権では3連覇を果たすとともに、世界選手権でも2位に入るなど、昨年から「世界記録に最も近い男」といわれられました。

身長165cm体重73kg。その鍛え抜かれた肉体を維持するため、現在は週3日のジム通いと、毎朝腹筋400回、ベンチプレスなど1時間程度をこなします。

「わたしはまだ基礎ができていません。修正するところはたくさんあります。控えめなその言葉にも、さらなる記録更新への自信をにじませていました。」

## ありがとうの手紙



最優秀賞  
 中学生の部  
 妹へ



川本中学校3年(現高校1年) 村岡桃佳さん

いつも笑顔でかわいいあなたが大好きです。毎日のようにけんかもするし、私が頼みごとをすると「えー。」と言うけれど、それでも頼みをきいてくれる優しい子。車いすにのっている私と一緒にいて見られていても何も気にせず傍らにいてくれるよね。私のせいで色々嫌なこともあったと思う。でも、私にあたることなく受け入れてくれて本当に感謝しています。いつもありがとう。普段は絶対に口に出して言わないけれど、大好きだよ。

## 情熱農力

### おいしさ伝えたい



田邊 和宏さん(32歳・荒川)

深谷市は乳用牛飼養頭数が県内トップ。その一端を担う田邊さんは、現在40頭を飼育し、年間約360トンの原乳を出荷しています。

昨年には、市内の3酪農家で『ふっかちゃん牛乳』を共同開発。コクがあり甘みの強い自慢の味をそのまま閉じ込めました。今後の目標は、農場規模の拡大と、さらなる新商品の開発。「個々の農家には独自の味があります。そのおいしさを皆さんに届けたいです」そう力強く話してくれました。

※『ふっかちゃん牛乳』は、産業祭などのイベント限定で販売しています。

## 物語の手引き

### 『栄一とフランス語』

栄一は船中からフランス語を習い始め、パリで個人指導を受けました。日常の簡単な会話には、事欠かなかったようです。

### 『原市之進』

水戸藩士として、若いころから水戸や江戸で学問に励んだ学者で、私塾を営み

優秀な人物として広く知られていました。慶喜の禁裏守衛総督就任に際し一橋家の雇いとなります。公私の両面で慶喜を支え、側近として活躍しました。

### 『航西日記』

栄一が、パリ万国博覧会の使節団に加わりヨーロッパへ渡航した際の日記。国立国会図書館の近代デジタルライブラリーで日記の画像が公開されています。

※本コーナーの全編を通じて、登場する人物については、歴史上の人物としてその敬称を略します。また、年齢については、当時の通例に従い数え年の表記とします。